

2018年5月		
筆者	所属	千葉県農林総合研究センター 最重点プロジェクト研究室
	職名及び氏名	研究員 黒田 幸浩
題名	落花生「千葉P114号」の高品質多収栽培法	

千葉県が育成した落花生「千葉P114号」は甘みが強く、莢がきれいな品種です。平成10年に「郷の香」を母本に、「関東96号」（「土の香」×「千葉半立」）を父本に交配し、選抜を進め、平成27年2月に品種登録出願を行いました。ここでは「千葉P114号」の高品質かつ多収となる栽培のポイントをご紹介します。

① 栽植密度は、株間を30cm、1穴1粒まきが適します。

「千葉P114号」は良く発芽する品種であり、1粒まきでも欠株が少ないため収量減少への影響は少ないです。また、株間を30cmより狭くしたり、2粒まきにすると、分枝が長くなり、徒長の原因となります。

② 播種時期は、5月中旬から6月中旬が適します。

これよりも早いと、子実のシヨ糖含有量が低下します。また、遅すぎると収量が低下する要因となります。

③ かん水は、収量向上の効果が高い開花期後20日前後に1回行ってください。一方で開花期後40日以降のかん水は収量向上の効果が低く、子実のシヨ糖含有量を低下させるおそれもあるため、控えてください。

④ 収穫は開花期後80日を目安に行ってください。

収穫時期が遅くなるほど収量は増加しますが、逆に子実の外観が悪くなります。子実の外観が低下し始める開花期後80日に収穫を行うことで、収量と品質が確保されます。

なお千葉県ホームページ

([https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/seikafukyu/documents/03\\_p114.pdf](https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/seikafukyu/documents/03_p114.pdf))

に詳しい栽培方法が掲載されておりますのでご活用ください。

「千葉P114号」は今年の秋に愛称が決まり、秋から一般販売が開始される予定です。これらの栽培方法を守り、食味の良い「千葉P114号」を生産し、消費者の皆様へおいしい落花生をお届けしましょう。



写真 莢及び子実の外観

注) 既存品種と比較して莢が白く外観が良い